２０２６年度

講義概要（シラバス）

１年生

松江総合医療専門学校

理学療法学科

科目区分	基礎分野	履修条件			
科目名	心理学	単位数	2	開講年次	1年前期
担当教員	川島　直也	実務経験		総合病院で理学療法士として勤務経験あり。	
授業形態	講義				
授業内容	医療技術職として役立つ心理学的知見を学習する				
授業科目の 学習教育目標	心理学の学問体系について歴史、方法を理解し、基本的な研究領域やテーマについて学習する。 授業では、日常の社会的事象から問題を取り上げたり、学生の興味や関心、疑問に応えながら進める				
到達目標 （行動目標）	心理学の各分野・領域から自他の人間理解と支援のルートを探索し、その学習効果を医療・福祉の現場で役立てる。				
回数	授業計画				
1	心理学とは				
2	感覚と知覚				
3	記憶（メカニズム、短期記憶）				
4	記憶（長期記憶、忘却）				
5	思考・言語・知能				
6	学習				
7	感情と動機づけ（感情とは、メカニズム）				
8	感情と動機づけ（動機付けとは、動機づけの理論）				
9	性格とパーソナリティ				
10	社会と集団				
11	発達（発達とは、乳幼児の発達）				
12	発達（児童・青年の発達）				
13	発達（成人・高齢者の発達）				
14	心理臨床				
15	医療と心理				
成績評価	出席・授業態度および筆記試験にて総合的に評価を行う。				
教科書及び参考書	教科書：系統看護学講座　基礎分野　心理学				
教材 （例：パソコン・プロジェクター）	パソコン・プロジェクター				
メールアドレス	（川島）kawa-c@matsuecc.ac.jp				
備考（受講に際する留意点など）					

科目区分	基礎分野	履修条件			
科目名	倫理学	単位数	2	開講年次	1 年前期
担当教員	川島典子 内田　賢	実務経験	産経新聞大阪本社　社会部記者等 総合病院で理学療法士として勤務経験あり。		
授業形態	講義　ディスカッション				
授業内容	医療技術者に必要な倫理学について学習する。				
授業科目の 学習教育目標	医療・保健・福祉の現場において専門職として従事するにあたり必要な職業倫理および人間の人権や尊厳全般について学ぶ。				
到達目標 （行動目標）	患者さんや利用者さんとその家族に寄り添い、人間としての人権と尊厳を尊重し、より良い生活の質を保持し、生きがいをもって生きることができる支援の根幹となる倫理について理解する。				
回数	授業計画				
1	倫理学の概要・人権の概念と歴史・人権意識と職業倫理など				
2	貧困と人権、児童と人権				
3	高齢者福祉における人権、障害者福祉における人権				
4	倫理と医療倫理				
5	人権について				
6	個人情報保護について				
7	対人援助職について				
8	対人援助者としての準備				
9	ケーススタディ				
10	ケーススタディ				
11	理学療法士協会倫理規定について				
12	理学療法士に求められる倫理について 1				
13	理学療法士に求められる倫理について 2				
14	理学療法士に求められる倫理について 3				
15	理想の理学療法士像について				
成績評価	出席および定期試験と課題レポート等総合的に判定				
教科書及び参考書	ミネルヴァ書房　木原活信『社会福祉と人権』(2014)				
教材 （例：パソコン・プロジェクター）	人権学習に関する DVD など				
メールアドレス					
備考（受講に際する留意点など）					
教科書とノートを持ってくる。私語・居眠りは厳禁です。真剣に臨み、共に考える講義にしましょう					

科目区分	基礎分野	履修条件			
科目名	社会人基礎論	単位数	2	開講年次	1年前期
担当教員	内田　武 馬庭　春樹	実務経験		総合病院で理学療法士として勤務経験あり。	
授業形態	講義、グループワーク				
授業内容	社会人基礎力について説明し、高めるために必要な心構えをディスカッションする				
授業科目の 学習教育目標	社会人として、医療人として働くために基礎的な「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」を基に、社会で働くための要素を学習し、実生活で実践していく。				
到達目標 （行動目標）	社会人基礎力について理解し、スキルを身につける。				
回数	授業計画				
1	社会人基礎力とは				
2	前に踏み出す力　主体性を高めるには				
3	前に踏み出す力　働きかけ力を高めるには				
4	前に踏み出す力　働きかけ力を高めるには				
5	考え抜く力　課題発見力を高めるには				
6	考え抜く力　計画力を高めるには				
7	考え抜く力　創造力を高めるには				
8	チームで働く力　発信力を高めるには				
9	チームで働く力　傾聴力を高めるには				
10	チームで働く力　柔軟性を高めるには				
11	チームで働く力　状況把握力を高めるには				
12	チームで働く力　規律性を高めるには				
13	チームで働く力　ストレスコントロールを高めるには				
14	文章の書き方1				
15	文章の書き方2				
成績評価	出席、提出物等で総合的に判断する				
教科書及び参考書					
教材 （例：パソコン・プロジェクター）	パソコン、プロジェクター				
メールアドレス					
備考（受講に際する留意点など）					
社会人基礎力は、15回の講義で身に付くものではありません。日々の思考や行動を振り返り、信頼される社会人になってください。					

科目区分	基礎分野	履修条件			
科目名	物理学	単位数	2	開講年次	1 年前期
担当教員	水野　薫	実務経験	大学教員として大学、専門学校において教育経験あり。		
授業形態	講義が主体ですが，理解度を高めるために問題演習を高頻度に行います。				
授業内容	物理学（力学）の基礎的概念について学習する。				
授業科目の 学習教育目標	理学療法士にとって必要な物理学（力学）の基礎的概念や知識を身につける事を目的とします。そのため、日常生活で体験する物理学的な事例を取り上げ，数式にとらわれず具体的なイメージが持てるように講義を行います。				
到達目標 （行動目標）	国家試験に出題される物理学（力学）の問題の正解を導き出せる事を到達目標とします。そのためには，移動距離，速度，加速度，質量，力，運動量の定義と概念の理解，さらにこれらを計算で求めることが要求されます。以上に加えて，運動量保存の法則と仕事，仕事率，運動エネルギー，位置エネルギー，力学的エネルギー保存の法則の理解も必要です。				

回数	授業計画
1	講義内容と成績評価のガイダンス，単位の変換
2	グラフによる運動の表現
3	速度は位置の変化の割合
4	平均速度と瞬間速度
5	加速度は速度の変化の割合
6	等加速度運動をする物体の速度と位置の求め方
7	自由落下は等加速度運動
8	微分・積分を用いた速度・加速度・位置の求め方
9	力と加速度運動
10	運動の三法則
11	運動量
12	運動量の保存則
13	エネルギーは蓄えられている仕事量
14	力学的エネルギーの保存則
15	国家試験に出された問題の解答と解説

成績評価	定期試験にて評価（100 点満点中 60 点以上で合格）
教科書及び参考書	オーム社　中野正博著『看護・医療技術者のためのたのしい物理』ISBN489019018
教材 （例：パソコン・プロジェクター）	パソコン、プロジェクター
メールアドレス	mizuno@riko.shimane-u.ac.jp

備考（受講に際する留意点など）
各自ノートを準備してください。このノートに頻繁に行う演習問題の解答を汚くても良いので自分で書いて下さい。少なくとも黒板に書かれた解答は書き写してください。数式を扱う科目（数学や物理学など）では実際に自分で手を動かして数式を変換したり数値の計算を行わないと十分な理解ができません。

科目区分	基礎分野	履修条件			
科目名	統計学	単位数	2	開講年次	1年後期
担当教員	小林　裕太	実務経験	大学教員として大学、専門学校での教育経験あり。		
授業形態	講義				
授業内容	統計学の基礎を学ぶ				
授業科目の 学習教育目標	健康や疾病にかかわる多くの現象は、数値化することによって客観的に理解することができ、その影響を科学的に推定することが可能となる。ここでは、評価や研究の基礎となる統計学を学ぶ。				
到達目標 （行動目標）	①統計の考え方について必要な事項を説明できる。②統計処理の方法について重要な事項を説明できる。③健康や治療にかかわるデータを統計処理する場合に適用すべき統計の方法を判断できる。④平均、分散、関連など基礎的な統計処理を行うことができる。				
回数	授業計画				
1	統計学を学ぶにあたって、統計資料の整理				
2	度数分布と平均値				
3	正規分布と標準偏差				
4	確率と確率分布				
5	標本分布				
6	回帰と相関				
7	推定				
8	検定				
9	X^2検定と母平均の検定				
10	平均の差の検定				
11	ノンパラメトリック検定				
12	多試料検定				
13	検定の進め方				
14	標本調査法				
15	研究の進め方				
成績評価	講義の際の小テスト（40%）とレポート（10%）、最終試験（50%）で評価する				
教科書及び参考書	医歯薬出版：やさしい医療系の統計学/佐藤敏夫・村松宰　著				
教材 （例：パソコン・プロジェクター）					
メールアドレス					
備考（受講に際する留意点など）					

科目区分	基礎分野	履修条件			
科目名	情報処理実習	単位数	1	開講年次	1 年前期
担当教員	石川　謙二	実務経験	病院、会社などでのシステム作成、運営、管理の実務経験あり。		
授業形態	講義と演習				
授業内容	パソコン操作と Word による文章の作成				
授業科目の 学習教育目標	基本的なパソコン操作を理解する。Word を使用して基本的な文章の作成・図・オートシェイプを使った作図・表の作成を学ぶ。Excel による表計算の基本を学ぶ。				
到達目標 （行動目標）	Word を使用して基本的な文章の作成・図・オートシェイプを使った作図・表の作成ができる。Excel を使った基本的な表計算ができる。				

回数	授業計画
1	パソコンの取り扱いについて
2	簡単な文章を作成してみる。文章の装飾・保存・読出し
3	文書に図を挿入する　1
4	オートシェイプを使って作図
5	表の挿入　1
6	表の挿入　2
7	インデントを使って文章を作成　1
8	インデントを使って文章を作成　2
9	Excel の簡単な使い方
10	Excel　簡単な関数を使う　1
11	Excel　簡単な関数を使う　2
12	Excel と Word をリンクして使う 1
13	Excel と Word をリンクして使う 2
14	実際にレポートを作成してみる　1
15	実際にレポートを作成してみる　2

成績評価	指定時間内に、指定した Word 文章の作成
教科書及び参考書	教科書無し
教材 （例：パソコン・プロジェクター）	
メールアドレス	

備考（受講に際する留意点など）

科目区分	基礎分野	履修条件			
科目名	英語	単位数	2	開講年次	1 年前期
担当教員	林　満	実務経験	英語教諭として、高等学校にて講師経験あり		
授業形態	講義および演習				
授業内容	授業（Reading・Writing）				
授業科目の 学習教育目標	将来従事する理学療法士としての一般教養および医療福祉関係の内容を英文で読み、主として Reading と Writing の向上を目指す。				
到達目標 （行動目標）	臨床現場で触れることのある英文に慣れる。 医療関連の文章の Reading と Writing ができるようになる。				
回数	授業計画				
1 2	Unit 1．The Human Body				
3 4	Unit 2．Nutrition and Fitness				
5 6	Unit 3．Communicable Disease				
7 8	Unit 4．Hygiene and Public Health				
9 10	Unit 5．Reforming Japanese Healthcare				
11 12	Unit 6．　Needlestick Injuries in Medicine				
13 14	Unit 7．Dr.Kitasato and the Development of Medicine in Japan				
15	復習				
成績評価	定期試験を重視するが、平常の授業活動も考慮する。				
教科書及び参考書	Healthy Life for Today and Tomorrow				
教材 （例：パソコン・プロジェクター）	英和辞書を必ず持参する。				
メールアドレス	mitsuruhayashi@gmail.com				
備考（受講に際する留意点など）					
授業は予習を前提に行います。					

科目区分	基礎分野	履修条件			
科目名	保健体育	単位数	1	開講年次	1 年前期
担当教員	加藤　友未	実務経験	総合病院で理学療法士として勤務経験あり。		
授業形態	実技				
授業内容	運動の意味や効果を理解する。				
授業科目の 学習教育目標	自分自身の健康の保持、増進、体力の向上をはかるとともに、運動の意味や効果の理解、運動することへの自覚を促進させる。				
到達目標 （行動目標）	心身の健康の保持、増進、体力の向上を図る。ニュースポーツ等経験しながら協調性を育む。				
回数	授業計画				
1	体力チェック①				
2	体力チェック②				
3	ニュースポーツの実際①				
4	ニュースポーツの実際②				
5	ニュースポーツの実際③				
6	心身の健康とチームワークビルディングについて①				
7	心身の健康とチームワークビルディングについて②				
8	健康と体力について①				
9	健康と体力について②				
10	ニュースポーツの実際④				
11	ニュースポーツの実際⑤				
12	ニュースポーツの実際⑥				
13	体力チェック③				
14	体力チェック④				
15	まとめ（振り返り）				
成績評価	出席状況、受講態度等を考慮して総合的に評価する。				
教科書及び参考書	なし				
教材 （例：パソコン・プロジェクター）					
メールアドレス	katou@matsuecc.ac.jp				
備考（受講に際する留意点など）					

科目区分	基礎分野	履修条件			
科目名	保健体育実習	単位数	1	開講年次	1年後期
担当教員	加藤　友未	実務経験	総合病院で理学療法士として勤務経験あり。		
授業形態	実技				
授業内容	ニュースポーツを経験する				
授業科目の学習教育目標	身体運動の方法を学習し、健康の保持、体力の向上をはかる。また生涯スポーツの観点からニュースポーツを主に学習する。				
到達目標（行動目標）	心身の健康の保持、増進、体力の向上を図る。ニュースポーツ等経験しながら協調性を育む。				
回数	授業計画				
1	フィールドスポーツの実際①				
2	フィールドスポーツの実際②				
3	フィールドスポーツの実際③				
4	フィールドスポーツの実際④				
5	コートスポーツの実際①				
6	コートスポーツの実際②				
7	コートスポーツの実際③				
8	コートスポーツの実際④				
9	対人スポーツの実際①				
10	対人スポーツの実際②				
11	対人スポーツの実際③				
12	対人スポーツの実際④				
13	健康と体力について①				
14	健康と体力について②				
15	まとめ				
成績評価	出席状況、受講態度等を考慮して総合的に評価する				
教科書及び参考書	なし				
教材（例：パソコン・プロジェクター）					
メールアドレス	katou@matsuecc.ac.jp				
備考（受講に際する留意点など）					

科目区分	専門基礎分野	履修条件			
科目名	解剖学Ⅰ	単位数	2	開講年次	1年前期
担当教員	加藤　友未 川島　直也	実務経験		総合病院で理学療法士として勤務経験あり。	
授業形態	講義				
授業内容	講義を通して、人体の構造（筋骨格系）について学習する				
授業科目の 学習教育目標	解剖学は基礎医学科目の一つで、身体の構造を学ぶ学問であり、身体の機能（生理学）とも密接な関係にある。この科目では特に人体の筋・骨格について理解する。				
到達目標 （行動目標）	① 細胞・組織の基本的な構造と機能について説明できる。 ② 筋・骨格系の構造と機能について説明できる。				

回数	授業計画
1	骨格系：骨総論（骨構造・種類・組織・発生）（加藤）
2	骨格系：上肢帯及び上腕、前腕、手（加藤）
3	骨格系：下肢帯（骨盤）・大腿（加藤）
4	骨格系：下腿・足部（加藤）
5	骨格系：頭蓋骨（加藤）
6	骨格系：脊柱・仙骨・胸郭（加藤）
7	骨格系：関節構成①関節と靭帯の構造と機能・頭蓋、脊柱、胸郭（加藤）
8	骨格系：関節構成②上肢・下肢の連結（加藤）
9	筋系：筋総論（筋構造・種類）（川島）
10	筋系：肩甲帯・上肢の筋（川島）
11	筋系：前腕・手内在筋（川島）
12	筋系：骨盤帯・大腿の筋（川島）
13	筋系：下腿・足部の筋（川島）
14	筋系：体幹・横隔膜（川島）
15	筋系：頭部・頸部の筋（川島）

成績評価	小テスト・定期テストで総合的に判断する。
教科書及び参考書	「標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　解剖学」第5版（医学書院）
教材 （例：パソコン・プロジェクター）	パソコン、プロジェクター、配布資料
メールアドレス	（加藤）katou@matsuecc.ac.jp

備考（受講に際する留意点など）

・覚える内容が多いため、講義の予習復習（特に復習）を行うこと。
・分からない点があればその都度教員に質問して理解すること。

科目区分	専門基礎分野	履修条件			
科目名	解剖学Ⅱ	単位数	2	開講年次	1年後期
担当教員	加藤　友未 川島　直也	実務経験		総合病院で理学療法士として勤務経験あり。	
授業形態	講義				
授業内容	講義を通して、人体の構造（内臓系）について学習する				
授業科目の 学習教育目標	解剖学は基礎医学科目の一つで、身体の構造を学ぶ学問であり、身体の機能（生理学）とも密接な関係にある。この科目では特に人体の内臓系について理解する。				
到達目標 （行動目標）	内臓諸器官の構造と機能について説明できる。				

回数	授業計画
1	消化器系：総論、口腔、食道（川島）
2	消化器系：胃、腸（川島）
3	消化器系：肝・膵臓、間膜、動・静脈、門脈（川島）
4	心臓血管系：心臓（川島）
5	心臓血管系：脈管学総論(血管)、脳循環、肺循環（川島）
6	心臓血管系：体循環（川島）
7	心臓血管系：胎児環境、リンパ系（川島）
8	呼吸器系：鼻腔、咽頭（加藤）
9	呼吸器系：喉頭、気管、肺（加藤）
10	泌尿器系：腎臓・膀胱（加藤）
11	生殖器系：男性・女性生殖器、発生学（加藤）
12	感覚器系：視覚器、味覚器（加藤）
13	感覚器系：聴覚器（加藤）
14	感覚器系：嗅覚器、味覚器（加藤）
15	内分泌系、外皮系（加藤）

成績評価	小テスト・定期テストで総合的に判断する。
教科書及び参考書	「標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　解剖学」第5版（医学書院）
教材 （例：パソコン・プロジェクター）	パソコン、プロジェクター、配布資料
メールアドレス	（加藤）katou@matsuecc.ac.jp

備考（受講に際する留意点など）

・覚える内容が多いため、講義の予習復習（特に復習）を行うこと。
・分からない点があればその都度教員に質問して理解すること。

科目区分	専門基礎分野	履修条件			
科目名	解剖学Ⅲ	単位数	2	開講年次	1年前期
担当教員	福島　卓	実務経験		総合病院で理学療法士として勤務経験あり。	
授業形態	講義				
授業内容	脳・脊髄の構造について学習する				
授業科目の 学習教育目標	脳・脊髄などの中枢神経系と脊髄神経・脳神経・自律神経などの末梢神経の構造、形態を学ぶ。構造と機能は密接な関係にあるため、臨床に繋がるように整理していく。				
到達目標 （行動目標）	脳・脊髄などの中枢神経系と脊髄神経・脳神経・自律神経などの末梢神経の構造、形態を理解し、説明できる。				
回数	授業計画				
1	総論、神経区分、発生、ニューロン構成				
2	髄膜と脳室系、脳の血管系				
3	大脳皮質				
4	間脳（視床、視床下部）				
5	小脳				
6	脳幹（中脳、橋、延髄）				
7	脳神経				
8	脊髄				
9	大脳辺縁系と大脳基底核				
10	下行性伝導路（錐体路と錐体外路）				
11	上行性伝導路（四肢・体幹と頭部・顔面）				
12	特殊感覚系（感覚器、視覚、聴覚、平衡覚、味覚、臭覚）				
13	脊髄神経　下肢				
14	脊髄神経　上肢				
15	自律神経				
成績評価	定期テスト（100%）で総合的に判断する。				
教科書及び参考書	メディックメディア　病気がみえる　Vol. 7 脳・神経 医学書院　標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　解剖学（デジタル教科書）				
教材 （例：パソコン・プロジェクター）	パソコン、プロジェクター、配布資料				
メールアドレス					
備考（受講に際する留意点など）					

科目区分	専門基礎分野	履修条件			
科目名	解剖学演習Ⅰ	単位数	2	開講年次	1年前期
担当教員	加藤　友未 川島　直也	実務経験	総合病院で理学療法士として勤務経験あり。		
授業形態	講義、演習				
授業内容	解剖学Ⅰで学習する内容（筋・骨格系）について、専門用語の解説を行ったのちに問題演習を行う。				
授業科目の 学習教育目標	① 解剖書や模型を用いて筋骨格系のスケッチを用い、立体的に理解する ② 筋骨格系について、基礎的な知識を獲得する				
到達目標 （行動目標）	① 各回の講義内容を復習し、必要があれば担当教員への質問を行う ② 筋骨格系について、自分で情報を検索できるようになる ③ 筋骨格系の基礎知識を理解し、説明できるようになる ④ 筋骨格系における問題演習を解くことができるようになる				
回数	授業計画				
1	骨格系：骨総論（骨構造・種類・組織・発生）（加藤）				
2	骨格系：上肢帯及び上腕、前腕、手（加藤）				
3	骨格系：下肢帯（骨盤）・大腿（加藤）				
4	骨格系：下腿・足部（加藤）				
5	骨格系：頭蓋骨（加藤）				
6	骨格系：脊柱・仙骨・胸郭（加藤）				
7	骨格系：関節構成①関節と靭帯の構造と機能・頭蓋、脊柱、胸郭（加藤）				
8	骨格系：関節構成②上肢・下肢の連結（加藤）				
9	筋系：筋総論（筋構造・種類）（川島）				
10	筋系：肩甲帯・上肢の筋（川島）				
11	筋系：前腕・手内在筋（川島）				
12	筋系：骨盤帯・大腿の筋（川島）				
13	筋系：下腿・足部の筋（川島）				
14	筋系：体幹・横隔膜（川島）				
15	筋系：頭部・頸部の筋（川島）				
成績評価	提出物・定期テストで総合的に判断する。				
教科書及び参考書	「標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　解剖学」第5版（医学書院）				
教材 （例：パソコン・プロジェクター）	パソコン、プロジェクター、配布資料				
メールアドレス	（加藤）katou@matsuecc.ac.jp				
備考（受講に際する留意点など）					
問題演習では、ただ問題を解くだけでなく、積極的に調べ学習を行い内容の理解に努めること。 毎回確認テストを実施します。					

科目区分	専門基礎分野	履修条件			
科目名	解剖学演習Ⅱ	単位数	2	開講年次	1年後期
担当教員	加藤　友未 川島　直也	実務経験		総合病院で理学療法士として勤務経験あり。	
授業形態	講義、演習				
授業内容	解剖学Ⅱで学習する内容（内臓系）について、専門用語の解説を行ったのちに問題演習を行う。				
授業科目の 学習教育目標	① 解剖書や模型を用いて内臓器官等のスケッチを用い、立体的に理解する ② 内臓系について、基礎的な知識を獲得する				
到達目標 （行動目標）	① 各回の講義内容を復習し、必要があれば担当教員への質問を行う ② 内臓系について、自分で情報を検索できるようになる ③ 内臓系について理解し、説明できるようになる ④ 内臓系における問題演習を解くことができるようになる				

回数	授業計画
1	消化器系：総論、口腔、食道（川島）
2	消化器系：胃、腸（川島）
3	消化器系：肝・膵臓、間膜、動・静脈、門脈（川島）
4	心臓血管系：心臓（川島）
5	心臓血管系：脈管学総論(血管)、脳循環、肺循環（川島）
6	心臓血管系：体循環（川島）
7	心臓血管系：胎児環境、リンパ系（川島）
8	呼吸器系：鼻腔、咽頭（加藤）
9	呼吸器系：喉頭、気管、肺（加藤）
10	泌尿器系：腎臓・膀胱（加藤）
11	生殖器系：男性・女性生殖器、発生学（加藤）
12	感覚器系：視覚器、味覚器（加藤）
13	感覚器系：聴覚器（加藤）
14	感覚器系：嗅覚器、味覚器（加藤）
15	内分泌系、外皮系（加藤）

成績評価	提出物・定期テストで総合的に判断する。
教科書及び参考書	「標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　解剖学」第5版（医学書院）
教材 （例：パソコン・プロジェクター）	パソコン、プロジェクター、配布資料
メールアドレス	（加藤）katou@matsuecc.ac.jp

備考（受講に際する留意点など）
ただ問題を解くだけでなく、積極的に調べ学習を行い内容の理解に努めること。 毎回、確認テストを実施します。

科目区分	専門基礎分野	履修条件			
科目名	解剖学演習Ⅲ	単位数	2	開講年次	1年前期
担当教員	福島　卓	実務経験	総合病院で理学療法士として勤務経験あり。		
授業形態	講義				
授業内容	脳・脊髄の構造について学習、演習問題を行う。				
授業科目の学習教育目標	脳・脊髄などの中枢神経系と脊髄神経・脳神経・自律神経などの末梢神経の構造、形態を学ぶ。演習問題を解くことで、理解を深める。				
到達目標（行動目標）	脳・脊髄などの中枢神経系と脊髄神経・脳神経・自律神経などの末梢神経の構造、形態を自ら調べながら学習し、学習内容を説明できる。				

回数	授業計画
1	総論、神経区分、発生、ニューロン構成
2	髄膜と脳室系、脳の血管系
3	大脳皮質
4	間脳（視床、視床下部）
5	小脳
6	脳幹（中脳、橋、延髄）
7	脳神経
8	脊髄
9	大脳辺縁系と大脳基底核
10	下行性伝導路（錐体路と錐体外路）
11	上行性伝導路（四肢・体幹と頭部・顔面）
12	特殊感覚系（感覚器、視覚、聴覚、平衡覚、味覚、臭覚）
13	脊髄神経　下肢
14	脊髄神経　上肢
15	自律神経

成績評価	確認テスト（40%）・定期テスト（60%）の割合で総合的に判断する。
教科書及び参考書	メディックメディア　病気がみえる　Vol. 7 脳・神経 医学書院　標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　解剖学（デジタル教科書）
教材 （例：パソコン・プロジェクター）	パソコン、プロジェクター、配布資料
メールアドレス	

備考（受講に際する留意点など）
問題を解くだけでなく、積極的に調べ学習を行い内容の理解に努めること。

科目区分	専門基礎分野	履修条件			
科目名	生理学Ⅰ	単位数	2	開講年次	1年前期
担当教員	伊藤眞一、加藤友未	実務経験	島根大学医学部の生理学講座にて講師経験あり。		
授業形態	講義				
授業内容	「生きている」ということの基礎にある細胞と内部環境について講義する。				
授業科目の学習教育目標	神経、筋活動のもとになっている興奮という現象を説明する。ついで反射、感覚、自律神経系、内分泌、代謝と体温、筋収縮、骨を順次講義する。 最後に高次脳機能とその障害について解説する。				
到達目標（行動目標）	①細胞の基本的な構造と機能について説明できる。②生体の恒常性維持について説明できる。③静止電位、活動電位、シナプス電位について説明できる。④反射について説明できる。⑤感覚の受容機序と伝導路について説明できる。⑥自律神経系の中枢内局在、末梢分布、機能について概説できる。⑦内分泌器官とホルモンの種類・作用について説明できる。⑧代謝・体温について説明できる。⑨筋・骨の構造と機能について説明できる。⑩記憶、認知、情動について説明できる。				
回数	授業計画				
1	生理学とは　細胞の構造　ホメオスタシス				
2	細胞間情報伝達の一般論、静止電位・活動電位の成因				
3	シナプス伝達				
4	脊髄反射の経路、姿勢反射				
5	感覚				
6	感覚				
7	自律神経				
8	内分泌				
9	成長・生殖				
10	代謝、運動、体温				
11	筋収縮（骨格筋の構造と収縮）				
12	筋収縮（心筋と平滑筋：骨格筋との比較）				
13	骨の生理学				
14	脳（記憶と学習、情動）				
15	まとめ				
成績評価	定期試験（100%）				
教科書及び参考書	標準 理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　「生理学」/医学書院　電子版				
教材 （例：パソコン・プロジェクター）	パソコン、プロジェクター				
メールアドレス					
備考（受講に際する留意点など）					

科目区分	専門基礎分野	履修条件			
科目名	生理学Ⅱ	単位数	2	開講年次	1年後期
担当教員	白石　義光	実務経験		鳥取大学医学部の生理学講座にて講師経験あり	
授業形態	講義				
授業内容	呼吸・循環・消化・排泄機能や血液等について講義する				
授業科目の学習教育目標	血液と体液の章では、体内に存在する水分すなわち体液と、その一部である血液の機能について学ぶ。循環と呼吸の章では、体外から取り込まれた酸素や栄養素は血液に入り、循環系によって体中に運ばれ、細胞の生命活動を支える循環系の機能を学ぶ。消化と吸収の章では、摂取された食物が、どのように消化され、吸収されるのか学ぶ。尿の生成と排泄の章では、腎臓で尿を作り、代謝で生じた老廃物や有害物質を排泄するとともに、血液や細胞外液の量、pH、浸透圧、電解質濃度などを調節して、体液の恒常性（ホメオスタシス）を保っているメカニズムを学ぶ。加齢の生理学では、加齢に伴って現れる生理機能の変化を学び、それにより老化を抑制する生活習慣の重要性を学ぶ。				
到達目標（行動目標）	呼吸・循環・消化・排泄機能や血液等について理解する。				
回数	授業計画				
1	血液と体液。体液の区分と組成。血液の成分と血液量。				
2	赤血球とその機能。白血球とその機能。血小板とその機能。				
3	止血機能。血液型。				
4	循環。循環の概念。心臓の機能的解剖。心臓の電気的活動。心電図。				
5	心臓の血液拍出の仕組みとその調整。血管系の役割。				
6	動脈圧の調節。高血圧。				
7	呼吸。呼吸器の構成。呼息と吸息。肺容量。				
8	肺胞換気と肺胞内ガス組成。血液によるガス運搬。血液pH緩衝作用。				
9	呼吸中枢。呼吸の化学的調節。低酸素症。				
10	消化と吸収。消化管の構造。栄養素の消化と吸収。				
11	消化管機能の調節因子。消化液分泌。				
12	消化管運動。胃の運動。大腸での消化と吸収。				
13	腎の構造と機能。糸球体における濾過。尿細管での再吸収と分泌。				
14	腎血流と調節。腎における酸塩基平衡。体液調節。尿の組成と排尿。				
15	加齢の生理学。老化による身体の基本的な変化。老化を変える因子。				
成績評価	定期試験および出席				
教科書及び参考書	標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野「生理学」（デジタル教科書）　医学書院				
教材（例：パソコン・プロジェクター）	パソコン、資料				
メールアドレス	y.shiraishi@plum.plala.or.jp				
備考（受講に際する留意点など）					
生理学Ⅰで学んだ神経系などの動物機能は理解したものとして、また解剖学も学んだものとして講義します。1年生でまだ医学用語、解剖学的知識が不足していると思いますので、内容は理解できなくても前もって教科書を読んで、一度でいいので目を通しておいてほしいと思います。					

科目区分	専門基礎分野	履修条件			
科目名	生理学Ⅲ	単位数	2	開講年次	1年後期
担当教員	近藤　威	実務経験		総合病院で医師として勤務経験あり。	
授業形態	講義				
授業内容	人体の生理機能を理解するために、人体を構成する各要素（細胞-組織-器官）に分解してその個々の機能を理解し、それら要素間の相互関係や統合関係を学ぶ。				
授業科目の学習教育目標	生理学は、人体の機能を理解する学問である。人体の生理機能を理解するために、人体を構成する各要素（細胞-組織-器官）に分解してその個々の機能を理解し、それら要素間の相互関係や統合関係を学ぶ。本講義では、人体の運動機能を構成する神経系の形態及び生理機能を学び、外的刺激に対する人体の反射・反応、運動・活動のしくみ（メカニズム）について構造（形態）機能を一体的に講義する。				
到達目標（行動目標）	人体の運動機能を構成する神経系の形態及び生理機能を説明し、外的刺激に対する人体の反射・反応、運動・活動のしくみ（メカニズム）について構造（形態）機能を一体的に説明できる。				

回数	授業計画
1	細胞の構造と機能
2	神経の興奮伝導と末梢神経
3	中枢神経の構成と機能、メカニズム
4	脊髄・脳幹・小脳系の機能
5	間脳・大脳皮質の機能
6	脳の高次機能（学習・記憶・随意運動・脳波・覚醒と睡眠）
7	大脳基底核と脳梁、辺縁系、脳室と脳脊髄液・血液脳関門
8	意識障害、頭蓋内圧亢進症状、髄膜刺激症状、運動障害、言語障害、嚥下障害、呼吸障害
9	脳血管障害①
10	脳血管障害②
11	くも膜下出血
12	脳腫瘍
13	パーキンソン病
14	筋萎縮性側索硬化症、筋ジストロフィー
15	多発性硬化症・ギランバレー症候群

成績評価	定期試験（100%）
教科書及び参考書	医学書院　標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　生理学　【電子版】 メディックメディア　病気がみえる　Vol. 7 脳・神経
教材 （例：パソコン・プロジェクター）	パソコン、配布資料
メールアドレス	

備考（受講に際する留意点など）

前期の解剖学Ⅰ・Ⅲ、生理学Ⅰで学んだ神経系などの動物性機能は理解しているものとして講義します。一年生でまだ医学用語、解剖学知識が不足していると思いますので、内容は理解できなくても前もって教科書を読んでおくこと。

科目区分	基礎専門分野	履修条件			
科目名	生理学演習Ⅰ	単位数	2	開講年次	1年前期
担当教員	加藤　友未 川島　直也	実務経験		総合病院で理学療法士として勤務経験あり。	
授業形態	講義				
授業内容	生理学Ⅰで学習する内容（細胞、内部環境）について、専門用語の解説を行ったのちに問題演習を行う。				
授業科目の 学習教育目標	① 生理学Ⅰで学習する内容についての補足説明を行い、生理学Ⅰの理解の一助とする ② 細胞・内部環境について、基礎的な知識を獲得する				
到達目標 （行動目標）	① 各回の講義内容を復習し、必要があれば担当教員への質問を行う ② 細胞・内部環境について、自分で情報を検索できるようになる ③ 細胞・内部環境について理解し、説明できるようになる ④ 細胞・内部環境についての問題演習を解くことができるようになる				

回数	授業計画
1	生命現象と人体・細胞の構造と機能（川島）
2	静止膜電位と活動電位・神経細胞の構造と興奮の伝導（川島）
3	シナプスでの興奮伝達・末梢神経の種類・自律神経（川島）
4	中枢神経系①：中枢神経系とは・脊髄/脳幹/小脳/間脳の機能（川島）
5	中枢神経系②：大脳皮質の機能・脳の高次機能（川島）
6	中枢神経系③：大脳基底核・脳梁・辺縁系の機能・脳室と脳脊髄液/血管脳関門（川島）
7	筋と骨①：筋の分類（骨格筋/心筋/平滑筋）・筋の収縮連関・運動単位（川島）
8	筋と骨②：心筋と平滑筋・骨の構造と成長/老化（川島）
9	感覚①：概論・体性感覚と内臓感覚（加藤）
10	感覚②：特殊感覚・視覚/聴覚/平衡感覚/味覚/嗅覚（加藤）
11	内分泌機能とホルモン・内分泌器官とホルモンの作用（加藤）
12	代謝と体温：栄養素・エネルギー代謝・体温（加藤）
13	生殖と発生・成長と老化（加藤）
14	運動生理①：筋力と筋持久力・筋収縮のエネルギー源（加藤）
15	運動生理②：運動に伴う全身の変化・トレーニングの効果・加齢変化（加藤）

成績評価	確認テスト・定期テストで総合的に判断する。
教科書及び参考書	標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　「生理学」/医学書院
教材 （例：パソコン・プロジェクター）	パソコン、プロジェクター、配布資料
メールアドレス	（加藤）katou@matsuecc.ac.jp

備考（受講に際する留意点など）
問題演習では、ただ問題を解くだけでなく、積極的に調べ学習を行い内容の理解に努めること。 毎回、確認テストを実施します。

科目区分	専門基礎分野	履修条件			
科目名	生理学演習Ⅱ	単位数	2	開講年次	1年後期
担当教員	加藤　友未 川島　直也	実務経験	総合病院で理学療法士として勤務経験あり。		
授業形態	講義、演習				
授業内容	生理学Ⅱで学習する内容（内臓系の生理学）について、専門用語の解説を行ったのちに問題演習を行う。				
授業科目の 学習教育目標	① 生理学Ⅱの内容について学習し、生理学Ⅱの理解の一助とする ② 内臓系の生理学について、基礎的な知識を獲得する				
到達目標 （行動目標）	① 各回の講義内容を復習し、必要があれば担当教員への質問を行う ② 内臓系の生理学について、自分で情報を検索できるようになる ③ 内臓系の生理学について理解し、説明できるようになる ④ 内臓系についての問題演習を解くことができるようになる				
回数	授業計画				
1	血液成分、体液成分等（加藤）				
2	赤血球、白血球、血小板等（川島）				
3	血液凝固と線維素溶解、血清、抗原等（川島）				
4	体循環と肺循環、血管の構造、リンパ等（川島）				
5	心臓の解剖等（川島）				
6	圧力とは、血圧の調整等（川島）				
7	呼吸器系の解剖等（川島）				
8	肺胞、拡散現象、pHとは等（川島）				
9	脳解剖、化学受容器等（加藤）				
10	口腔、消化器系の解剖（加藤）				
11	消化液等（加藤）				
12	消化酵素、糖、タンパク質等（加藤）				
13	泌尿器系の解剖等（加藤）				
14	浸透圧、蓄尿反射と排尿反射（加藤）				
15	老年期の特徴、身体機能の喪失、健康の喪失等（加藤）				
成績評価	小テスト・定期テストで総合的に判断する。				
教科書及び参考書	「標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　生理学」第5版（医学書院）				
教材 （例：パソコン・プロジェクター）	パソコン、プロジェクター、配布資料				
メールアドレス	（加藤）katou@matsuecc.ac.jp				
備考（受講に際する留意点など）					
ただ問題を解くだけでなく、積極的に調べ学習を行い内容の理解に努めること。 毎回、確認テストを実施します。					

科目区分	専門基礎分野	履修条件			
科目名	生理学演習Ⅲ	単位数	2	開講年次	1年後期
担当教員	福島　卓 加藤　友未	実務経験		総合病院で理学療法士として勤務経験あり。	
授業形態	講義				
授業内容	脳・脊髄の構造と機能について学習する				
授業科目の 学習教育目標	解剖学では脳・脊髄などの中枢神経系と脊髄神経・脳神経・自律神経などの末梢神経の構造、形態を学びました。それらの機能や繋がりについてを学びます。構造と機能は密接不可分の関係にある、脳神経生理学を学ぶ。				
到達目標 （行動目標）	脳･脊髄などの中枢神経系と脊髄神経･脳神経･自律神経などの末梢神経の機能を理解し、説明できる。演習問題の内容を理解し、答えがわかるようになる。				
回数	授業計画				
1	細胞の構造と機能（加藤）				
2	神経の興奮伝導と末梢神経（加藤）				
3	中枢神経の構成と機能、メカニズム（加藤）				
4	脊髄・脳幹・小脳系の機能（加藤）				
5	間脳・大脳皮質の機能（加藤）				
6	脳の高次機能（学習・記憶・随意運動・脳波・覚醒と睡眠）（加藤）				
7	大脳基底核と脳梁、辺縁系、脳室と脳脊髄液・血液脳関門（加藤）				
8	意識障害、頭蓋内圧亢進症状、髄膜刺激症状、運動障害、言語障害、嚥下障害、呼吸障害（福島）				
9	脳血管障害①（福島）				
10	脳血管障害②（福島）				
11	くも膜下出血（福島）				
12	脳腫瘍（福島）				
13	パーキンソン病（福島）				
14	筋萎縮性側索硬化症、筋ジストロフィー（福島）				
15	多発性硬化症・ギランバレー症候群（福島）				
成績評価	確認テスト（40%）・定期テスト（60%）の割合で総合的に判断する。				
教科書及び参考書	メディックメディア　病気がみえる　Vol. 7 脳・神経 医学書院　標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　生理学				
教材 （例：パソコン・プロジェクター）	パソコン、プロジェクター、配布資料				
メールアドレス	s.fuku@matsuecc.ac.jp				
備考（受講に際する留意点など）					
基礎となる範囲です。小テストも行いますので、しっかりと復習をしましょう。					

科目区分	専門基礎分野	履修条件			
科目名	運動学Ⅰ	単位数	2	開講年次	1年前期
担当教員	川島　直也	実務経験	総合病院で理学療法士として勤務経験あり。		
授業形態	総合病院で理学療法士として勤務経験あり。				
授業内容	講義				
授業科目の 学習教育目標	運動を行う上で必要な筋・神経機能や呼吸・代謝機能など運動生理学を理解する。また、随意運動の脳内メカニズムや運動学習の基礎理論を理解する。座位・立位姿勢のアライメントや歩行の基本的なバイオメカニクスを理解する。				
到達目標 （行動目標）	各回の講義内容を復習し、必要があれば担当教員への質問を行う。また、理解度確認テストにより知識の定着具合を確認する。				

回数	授業計画
1	生体力学の基礎①（身体運動と力学、時間と空間、円運動、筋力と重力、モーメント）
2	生体力学の基礎②（身体運動と力学、時間と空間、円運動、筋力と重力、モーメント）
3	生体の構造と機能（骨・関節の構造）
4	生体の構造と機能（筋の構造と収縮機序）
5	生体の構造と機能（筋線維の種類）
6	生体の構造と機能（神経筋接合部と神経筋伝達・運動単位）
7	生体の構造と機能（中枢神経機構・随意運動）
8	生体の構造と機能（中枢神経機構・反射）
9	運動時の身体の反応（呼吸・循環）
10	運動時の身体の反応（栄養とエネルギー代謝）
11	運動学習①（学習と記憶・運動技能・学習の諸理論）
12	運動学習②（(運動学習の神経生物学・練習と訓練）
13	姿勢（座位・立位）の基本とアライメント観察
14	歩行と走行（歩行周期・重心の移動・床反力・筋活動・分析）
15	歩行と走行（高齢者の歩行・小児の歩行・異常歩行）

成績評価	定期試験・小テストを総合して判定する。
教科書及び参考書	15レクチャーシリーズ理学療法・作業療法テキスト運動学 筋骨格系のキネシオロジー原著第2版
教材 （例：パソコン・プロジェクター）	パソコン・プロジェクター
メールアドレス	kawa-c@matsuecc.ac.jp

備考（受講に際する留意点など）
実技を行うことがあるので、動きやすい服装で受講してください。質問などあれば、講義中でも受け付けますので積極的に質問をして疑問を解決できるようにしてください。

科目区分	専門基礎分野	履修条件			
科目名	運動学Ⅱ	単位数	1	開講年次	1年後期
担当教員	馬庭　春樹	実務経験	総合病院で理学療法士として勤務経験あり。		
授業形態	講義				
授業内容	人体の下肢構造および運動のメカニズムを理解することは、動作観察や理学療法の実施において不可欠な要素である。この科目では、講義を通して下肢の構造（筋・靭帯）や、運動のメカニズムについて学習する。				
授業科目の 学習教育目標	① 下肢の筋名、走行、機能を理解する ② 下肢の運動のメカニズムを理解する ③ 歩行のメカニズムを理解する				
到達目標 （行動目標）	① 下肢の筋名、走行、機能を説明することができる ② 下肢の運動のメカニズムを説明することができる ③ 歩行のメカニズムを説明することができる				
回数	授業計画				
1	股関節の基本構造				
2	股関節の関節運動				
3	股関節の運動に関与する筋				
4	確認テスト①（股関節の基本構造・関節運動・筋）				
5	膝関節の基本構造				
6	膝関節の関節運動				
7	膝関節の運動に関与する筋				
8	確認テスト②（膝関節の基本構造・関節運動・筋について）				
9	足関節・足部の基本構造				
10	足関節・足部の関節運動				
11	足関節・足部の運動に関与する筋				
12	確認テスト③（足関節の基本構造・関節運動・筋について）				
13	歩行のメカニズム				
14	歩行のメカニズムについての問題演習				
15	確認テスト④（歩行のメカニズムについて）				
成績評価	確認テスト（40%）、定期試験（60%）にて評価する				
教科書及び参考書	「15 レクチャーシリーズ 理学療法・作業療法テキスト運動学」（中山書店） 「筋骨格系のキネシオロジー」第 3 版（医歯薬出版）				
教材 （例：パソコン・プロジェクター）	パソコン、プロジェクター、配布資料				
メールアドレス	maniwa-h@matsuecc.ac.jp				
備考（受講に際する留意点など）					

科目区分	専門基礎分野	履修条件			
科目名	運動学Ⅲ	単位数	1	開講年次	1年後期
担当教員	内田　武	実務経験	総合病院で理学療法士として勤務経験あり。		
授業形態	講義、実技				
授業内容	運動学の上肢・体幹について講義、実技を通して学ぶ				
授業科目の学習教育目標	理学療法士として必要な上肢・体幹の運動学を学び、患者様を評価、治療するために必要最低限の知識を習得する。				
到達目標（行動目標）	1．運動のメカニズムについて解剖学的、生理学的視点を踏まえてメカニズムを理解する。 2．人体の運動機構を理解して、動作や姿勢を観察できる。 3．触診を踏まえて、実際に上肢や体幹を動かすことができる。 4．運動学と理学療法評価について関連づけた考え方ができる。				
回数	授業計画				
1	上肢帯と上肢の運動				
2	肩甲骨・肩鎖関節・胸鎖関節の構造と運動				
3	肩関節の構造と運動				
4	肩関節の構造と運動				
5	肘関節の構造と運動				
6	肘関節の構造と運動				
7	脊柱の構造（骨・靭帯・椎間板）				
8	頚部の構造と運動				
9	胸椎・胸郭の構造				
10	腰椎の構造と運動				
11	骨盤帯の運動				
12	手関節の構造と運動				
13	手関節の構造と運動				
14	指関節の構造と運動				
15	顎関節、顔面の筋（表情筋・咀嚼筋）				
成績評価	出席状況、小テスト、定期試験などで総合的に評価する。				
教科書及び参考書	カラー版筋骨格系のキネシオロジー　原著第3版				
教材 （例：パソコン・プロジェクター）	パソコン、プロジェクター				
メールアドレス					
備考（受講に際する留意点など）					

科目区分	専門基礎分野	履修条件			
科目名	人間発達学	単位数	2	開講年次	1年後期
担当教員	安部あかね	実務経験		作業療法士として発達障害分野の臨床経験あり	
授業形態	講義、演習				
授業内容	人間の発達過程を学ぶ。				
授業科目の 学習教育目標	理学療法・作業療法は、対象となる人間を理解することが大変重要である。 本講義では、対象者の心身の変化を単なる症状の『点』ではなく、生涯にわたる成長と適応の『線』として捉え、運動・認知・社会性が複雑に絡み合う生活機能の全体像を、各ライフステージの課題に即して深く理解できることを目指す。				
到達目標 （行動目標）	・発達の定義、原則を理解する。 ・人間発達における各側面の基本的な発達過程を理解する。 ・人間の発達に興味を持つ。				
回数	授業計画				
1	オリエンテーション、人間発達とは？（発達理論とその歴史）				
2	胎生期の発達、原始反射				
3	運動の発達（概論、粗大運動）				
4	運動の発達（粗大運動）				
5	運動の発達（上肢機能）				
6	運動の発達（上肢機能）				
7	認知機能の発達				
8	認知機能の発達				
9	情緒・社会性の発達				
10	情緒・社会性の発達				
11	コミュニケーションの発達				
12	日常生活動作の発達				
13	日常生活動作の発達				
14	遊び・仕事の発達				
15	各種評価法について				
成績評価	定期試験、授業態度、出席など総合的に評価する				
教科書及び参考書	医学書院：標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野「人間発達学」（デジタル教科書）				
教材 （例：パソコン・プロジェクター）	パソコン、プロジェクター、マット、バランスボード、バルーン等				
メールアドレス					
備考（受講に際する留意点など）					
・動きやすい服装で参加してください。 ・小テストを実施します。定期試験は、基本的に小テストから出題します。					

科目区分	専門基礎分野	履修条件			
科目名	内科学	単位数	2	開講年次	1年後期
担当教員	内田　武　他	実務経験		総合病院で理学療法士として勤務経験あり。	
授業形態	講義				
授業内容	内部障害を引き起こす主な疾患について講義する。				
授業科目の 学習教育目標	内部障害を引き起こす主な疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療を学ぶ。				
到達目標 （行動目標）	内部障害を引き起こす疾患の疫学、予後について説明できる。病因、症候について説明できる。検査（画像・生理検査を含む）、診断治療について説明できる。リハビリテーション医療について説明できる。				
回数	授業計画				
1	老年期疾患（フレイル、転倒、転落など）				
2	感染症①				
3	感染症②				
4	消化器疾患				
5	肝胆癌疾患				
6	循環器疾患				
7	内科学に必要な解剖・生理学				
8	腎・泌尿器疾患				
9	代謝性疾患				
10	内分泌疾患				
11	血液・造血器疾患				
12	呼吸器疾患				
13	免疫不全、アレルギー等				
14	内科的診断と治療				
15	症候学				
成績評価	定期試験				
教科書及び参考書	標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野「内科学」医学書院				
教材 （例：パソコン・プロジェクター）	パソコン				
メールアドレス					
備考（受講に際する留意点など）					

科目区分	基礎分野	履修条件			
科目名	臨床心理学	単位数	2	開講年次	1年後期
担当教員	浪花　佑典	実務経験		臨床心理士、公認心理師として精神科やリハビリテーション施設での臨床経験あり。	
授業形態	講義,演習				
授業内容	臨床心理学について講義する				
授業科目の学習教育目標	本講義は、医療専門職として患者や被援助者の心理状態を理解し、適切なコミュニケーションと支援を行うための基礎的能力を養うことを目的とする。臨床心理学の基本概念、心理アセスメント、主要な心理療法、ならびに専門領域における心理的介入の理論を学び、作業療法・理学療法の実践に応用できる心理学的視点を身につける。				
到達目標（行動目標）	① 臨床心理学の基本的な考え方や代表的な理論を説明できる。 ② 心理的アセスメントの種類や目的を理解し、どのような場面で使うかを説明できる ③ 主要な精神疾患や心理的問題の特徴を説明できる				
回数	授業計画				
1	臨床心理学の概要				
2	おもな発達・人格理論1				
3	おもな発達・人格理論2				
4	おもな発達・人格理論3				
5	主要な精神疾患の理解1				
6	主要な精神疾患の理解2				
7	心理アセスメント1				
8	心理アセスメント2				
9	心理アセスメント3				
10	代表的な心理療法1				
11	代表的な心理療法2				
12	代表的な心理療法3				
13	専門領域への応用1				
14	専門領域への応用2				
15	まとめ				
成績評価	出席状況、定期試験				
教科書及び参考書	専門職のための臨床心理学基礎　橋本　和幸　著/ムイスリ出版				
教材 （例：パソコン・プロジェクター）					
メールアドレス	yuten210@gmail.com				
備考（受講に際する留意点など）					
講義形式を基本としますが、理解を深めるために必要に応じて演習を取り入れます。					

科目区分	専門基礎分野	履修条件			
科目名	病理学概論	単位数	2	開講年次	1年後期
担当教員	並河　徹 加藤　友未	実務経験		島根大学医学部の病理学講座にて講師経験あり。 総合病院で理学療法士として勤務経験あり。	
授業形態	講義				
授業内容	病気の原因、成り立ちを学ぶ				
授業科目の 学習教育目標	病理学は、病気に侵された臓器の肉眼像、顕微鏡像をとおして病気の原因、成り立ちを学ぶ学問である。様々な病気の名前とその病気に特徴的な臓器の変化（肉眼像、顕微鏡像）が結び付けられるようトレーニングしていく				
到達目標 （行動目標）	①病因論（内因・外因を含む）について説明できる。 ②病理学的変化（血行障害、進行性・退行性病変、炎症・感染・免疫・アレルギー、腫瘍・新生物、奇形・遺伝を含む）について説明できる。 ③生体反応（ホメオスターシス、ストレス）について説明できる。				
回数	授業計画				
1	イントロダクション・細胞障害				
2	創傷治癒				
3	循環障害（1）				
4	循環障害（2）				
5	炎症				
6	免疫				
7	先天性疾患、遺伝性疾患				
8	腫瘍（1）				
9	腫瘍（2）				
10	各論　循環器				
11	各論　呼吸器				
12	各論　消化器				
13	各論　肝・胆・膵				
14	各論　血液・リンパ節				
15	各論　神経・運動器				
成績評価	授業態度及び試験				
教科書及び参考書	標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　病理学　医学書院電子版				
教材 （例：パソコン・プロジェクター）	パソコン				
メールアドレス					
備考（受講に際する留意点など）					

科目区分	専門基礎専門	履修条件			
科目名	小児科学	単位数	2	開講年次	1 年後期
担当教員	田中　雄二	実務経験		医師として病院にて実務経験あり。	
授業形態	講義				
授業内容	小児科疾患について講義する。				
授業科目の 学習教育目標	理学・作業療法の対象となる可能性の高い神経・筋・骨格系疾患とそれと関連の深い新生児・未熟児疾患や先天異常、遺伝病を中心に講義する。また、対象児が上記以外の疾病を併せ持つことは稀ではなく、将来、小児に接する上で必要な色々な病状や病態についても概説する。				
到達目標 （行動目標）	① 疫学、予後について説明できる。 ② 病因、症候について説明できる。 ③ 評価、検査（画像・生理検査を含む）、診断について説明できる。 ④ リハビリテーション医療について説明できる。 ⑤ その他の治療について説明できる。 ⑥ 小児の障害の一般的疾患について説明できる。				
回数	授業計画				
1	小児科学概論、診断と治療の概要				
2	新生児・未熟児疾患 1				
3	新生児・未熟児疾患 2				
4	先天異常と遺伝病 1				
5	先天異常と遺伝病 2				
6	神経・筋・骨格系疾患 1				
7	神経・筋・骨格系疾患 2				
8	神経・筋・骨格系疾患 3				
9	循環器疾患				
10	呼吸器疾患、感染症				
11	感染症、消化器疾患				
12	内分泌・代謝疾患、血液疾患				
13	免疫・アレルギー疾患、膠原病				
14	腫瘍性疾患、腎・泌尿器、生殖器疾患				
15	心身症・神経症、重症心身障害児、眼科・耳鼻科的疾患				
成績評価	定期試験				
教科書及び参考書	標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野「小児科学」電子版（医学書院）				
教材 （例：パソコン・プロジェクター）	適宜パソコンによるスライド提示、プリント配布を行う				
メールアドレス					
備考（受講に際する留意点など）					

科目区分	専門基礎分野	履修条件			
科目名	リハビリテーション概論	単位数	2	開講年次	1年前期
担当教員	内田　賢 澤田　勝寛	実務経験	総合病院で理学療法士として勤務経験あり。 医師として総合病院での勤務経験あり		
授業形態	講義				
授業内容	リハビリテーションの概略				
授業科目の 学習教育目標	リハビリテーションの定義、歴史、目的について理解する。 リハビリテーションの種類、構成要素、過程等について理解する。 リハビリテーションに関連する疾病、障害について理解する。 リハビリテーションに関連する法律・制度について理解する。				
到達目標 （行動目標）	リハビリテーションについて説明できる。 医学的リハビリテーションの概念、内容について説明できる。 リハビリテーションに関連する疾病、障害について説明できる リハビリテーションを取り巻く、法律、制度について説明できる。				
回数	授業計画				
1	リハビリテーションの概念・理念・定義、ノーマライゼーション				
2	健康と障害の概念と分類				
3	障害の心理的・社会的視点				
4	ヒトの発達と評価				
5	リハビリテーションの過程				
6	リハビリテーションの分野				
7	医療とリハビリテーション専門職と役割・チームアプローチ				
8	疾患概要（身体障害分野）				
9	疾患概要（精神障害分野）				
10	地域リハビリテーション				
11	高齢者・健康対策と少子化対策				
12	社会保障制度				
13	医療法・福祉関係法規				
14	リハビリテーションと理学療法				
15	まとめ				
成績評価	定期試験、レポート				
教科書及び参考書	教科書：永井書店　リハビリテーション概論 参考書：医歯薬出版　中村隆一著「リハビリテーション概論」、医歯薬出版　佐伯　覚編著「リハビリテーション概論」				
教材 （例：パソコン・プロジェクター）	パソコン、プロジェクター				
メールアドレス					
備考（受講に際する留意点など）					
リハビリテーション概論では、主に概略を講義します。各論については、それぞれの講義になかでより深く学習してください。					

科目区分	専門分野	履修条件			
科目名	理学療法概論	単位数	2	開講年次	1年前期
担当教員	内田　賢	実務経験	総合病院で理学療法士として勤務経験あり。		
授業形態	講義				
授業内容	理学療法(士）の概要および関連する基本的知識について学習する。				
授業科目の 学習教育目標	理学療法（士）の歴史・役割・過程・職域・職能・教育課程・介入方法について理解できる。 各病期（急性期、回復期、生活期、介護・終末期）における理学療法や介護予防における理学療法（士）の意義や目的について理解する。 リハビリテーションにおける理学療法の役割など理解する。				
到達目標 （行動目標）	理学療法の概要について説明できる。 理学療法士の職務について説明できる。 理学療法の介入方法（治療方法）について説明できる。				
回数	授業計画				
1	理学療法（士）とは　定義　仕事内容　活躍の場　対象				
2	理学療法教育　教育の歴史　カリキュラム　世界の理学療法				
3	倫理と適正				
4	介入方法１　理学療法評価　物理療法				
5	介入方法２　運動療法				
6	介入方法３　義肢・装具　ADL 練習　家族指導				
7	一般的な理学療法の流れ（評価、治療　記録）				
8	PT の対象疾患１（中枢神経疾患等）				
9	PT の対象疾患２（骨関節疾患、内部障害系疾患等）				
10	PT の対象疾患３（がん、地域理学療法、健康維持・増進、介護予防、産業理学療法等）				
11	急性期、回復期、維持期、終末期の理学療法				
12	診療報酬・介護報酬、その他				
13	車椅子　松葉杖　杖				
14	病院見学				
15	病院見学				
成績評価	定期試験、小テスト、レポート、出席状況などにより総合的に評定する				
教科書及び参考書	教科書：理学療法学概説　医学書院 参考書：理学療法概論テキスト/細田多穂監修/南江堂 理学療法概論/奈良　勲/医歯薬出版、理学療法概論/石川　朗/中山書店				
教材 （例：パソコン・プロジェクター）	パソコン、プロジェクター				
メールアドレス					
備考（受講に際する留意点など）					
理学療法について基本的なことを学びます。教科書、参考書以外も参考に知識を整理してください。 毎回、前回の復習のための小テストを行います。しっかり復習をしてください。					

科目区分	専門分野	履修条件			
科目名	理学療法評価法Ⅰ （四肢周径・ROM 等）	単位数	1	開講年次	1 年前期
担当教員	加藤　友未	実務経験		総合病院で理学療法士として勤務経験あり。	
授業形態	講義・実技				
授業内容	理学療法における評価の意義・目的を理解し，基本的評価技術の習得及び結果の解釈について学ぶ				
授業科目の 学習教育目標	理学療法評価・目標設定・理学療法プログラム立案の流れを理解する。 理学療法の基本的評価技術（問診・バイタルサイン・形態測定・関節可動域測定）を習得する。				
到達目標 （行動目標）	理学療法の一連の流れを説明できる。 各検査の方法及び注意点を説明できる。 上記の基本的評価技術が安全に実施でき，情報が整理できる。				
回数	授業計画				
1	理学療法における評価の概念				
2	理学療法における臨床評価の流れ				
3	問題点リストの整理の仕方				
4	記録・医療面接				
5	バイタルサイン				
6	形態測定①				
7	形態測定②				
8	形態測定③				
9	形態測定④				
10	関節可動域測定①				
11	関節可動域測定②				
12	関節可動域測定③				
13	関節可動域測定④				
14	関節可動域測定⑤				
15	まとめ（形態測定、関節可動域測定）				
成績評価	定期試験（40%）、実技試験（40%）、小テスト（20%）で総合的に判定する。				
教科書及び参考書	医学書院標準理学療法学 専門分野 理学療法評価学				
教材 （例：パソコン・プロジェクター）	パソコン，プロジェクター，配布資料				
メールアドレス	katou@matsuecc.ac.jp				
備考（受講に際する留意点など）					
受け身の態度でなく、自ら学ぶ姿勢で望むこと。 実技の習得には練習が必要であるため、各自時間を作って繰り返し練習すること。					

科目区分	専門分野	履修条件			
科目名	理学療法評価法実習Ⅰ（MMT）	単位数	1	開講年次	1年後期
担当教員	川島　直也	実務経験	総合病院で理学療法士として勤務経験あり。		
授業形態	講義・演習・実習				
授業内容	ある特定の筋、筋群がどの程度の筋力低下があるか、または麻痺があるか、それが治療によってどの程度まで回復したか手筋力検査法を使って評価する。患者の将来の社会復帰に対する目安を付けるための評価法である。これらの基本的な考え方や技術を習得し、関連要因を把握する評価を学ぶ。				
授業科目の 学習教育目標	基礎となる筋の起始・停止・作用・神経支配を説明できる。徒手筋力検査法（MMT）を習得し、筋力低下の程度と関連要因を把握する評価を実施する。評価を行う上で必要となる対象者へのコミュニケーション技術、配慮、リスク管理を身につける。				
到達目標 （行動目標）	①筋の起始・停止・作用・神経支配を列記する。②対象者の状態より筋力低下している部分を推測する。 ③MMT を習得し、筋力低下の程度を評価する。④評価を行う上でリスク管理を徹底する。 ⑤対象者への負担に配慮しつつ、医療人として適切にコミュニケーションする。				
回数	授業計画				
1	筋力検査の目的、MMT 判定基準、 MMT の実施、代償運動　　（総論）				
2	各論及び実技　　徒手筋力検査実技　（導入・下肢）				
3	各論及び実技　　徒手筋力検査実技　（下肢）				
4	各論及び実技　　徒手筋力検査実技　（下肢）				
5	各論及び実技　　徒手筋力検査実技　（下肢）				
6	各論及び実技　　徒手筋力検査実技　（下肢）				
7	各論及び実技　　徒手筋力検査実技　（下肢）				
8	各論及び実技　　徒手筋力検査実技　（上肢）				
9	各論及び実技　　徒手筋力検査実技　（上肢）				
10	各論及び実技　　徒手筋力検査実技　（上肢）				
11	各論及び実技　　徒手筋力検査実技　（上肢）				
12	各論及び実技　　徒手筋力検査実技　（体幹）				
13	各論及び実技　　徒手筋力検査実技　（体幹）				
14	各論及び実技　　徒手筋力検査実技　（体幹）				
15	各論及び実技　　徒手筋力検査実技　（顔面）				
成績評価	実技試験（50%）、筆記試験（50%）				
教科書及び参考書	「新・徒手筋力検査法　原著第 10 版」 共同医書出版社、配布資料				
教材 （例：パソコン・プロジェクター）	教科書、筆記用具				
メールアドレス	kawa-c@matsuecc.ac.jp				
備考（受講に際する留意点など）					
動きやすい服装で参加してください。わからないことは教材を見返し、教員やクラスメートに質問したり、実技演習などを通じて理解を深めてください。授業時間のみでは実技を習得することは困難であり、自己研鑽に励んでください。 授業中の飲食は禁止します。必要時には、許可を取ってから教室の出入りをしてください。携帯電話は電源を切ること。					

科目区分	専門分野	履修条件			
科目名	運動療法実習 （ROM-EX 等）	単位数	1	開講年次	1 年後期
担当教員	福島　卓	実務経験		総合病院で理学療法士として勤務経験あり。	
授業形態	講義・実技				
授業内容	疾患・障害に関係なく適応される基本的な知識・技術を身に付ける				
授業科目の 学習教育目標	①疼痛の病態とそのメカニズムについて説明できる ②筋緊張異常の病態とそのメカニズムについて説明できる ③関節可動域制限の病態とそのメカニズムについて説明できる ④筋力低下の病態とそのメカニズムについて説明できる ⑤運動麻痺の病態とそのメカニズムについて説明できる ⑥柔軟性低下の病態とそのメカニズムについて説明できる ⑦持久力低下の病態とそのメカニズムについて説明できる				
到達目標 （行動目標）	各障害のメカニズムを理解する 運動の種類や効果を理解し、目的に合った運動療法を提案できる				
回数	授業計画				
1	関節可動域制限の運動療法①				
2	関節可動域制限の運動療法②				
3	関節可動域制限の運動療法③				
4	筋力低下に対する運動療法①				
5	筋力低下に対する運動療法②				
6	持久力低下に対する運動療法				
7	運動麻痺に対する運動療法				
8	協調運動に対する運動療法				
9	柔軟性低下に対する運動療法①				
10	柔軟性低下に対する運動療法②				
11	柔軟性低下に対する運動療法③				
12	全身調整・機能回復運動療法				
13	高齢者に対する運動療法				
14	循環・軟部組織に対する運動療法				
15	疼痛に対する運動療法				
成績評価	定期試験、小テストにて総合的に評価する。				
教科書及び参考書	標準理学療法学　運動療法学 総論　第 4 版／編集：吉尾雅春・横田一彦				
教材 （例：パソコン・プロジェクター）	パソコン、プロジェクター				
メールアドレス					
備考（受講に際する留意点など）					
実技の際には動きやすい服装で、積極的に参加してください。					

科目区分	専門分野	履修条件			
科目名	物理療法学	単位数	1	開講年次	1年後期
担当教員	内田　賢	実務経験	総合病院で理学療法士として勤務経験あり。		
授業形態	講義、実技				
授業内容	物理療法の種類や効果・禁忌などを学び、安全に物理療法を実施する技術を身につける。				
授業科目の 学習教育目標	物理療法の種類を理解する。物理療法（温熱療法、寒冷療法、光線療法、超音波療法、電気刺激療法、牽引療法）の適応・禁忌・実施方法について説明できる。 物理療法（温熱療法、寒冷療法、光線療法、超音波療法、電気刺激療法、牽引療法）を実際に使用する。				
到達目標 （行動目標）	物理療法の種類について説明できる。 物理療法の適応・禁忌・実施方法について理解し、安全に物理療法を実施できる。				
回数	授業計画				
1	総論　物理療法の種類と特徴				
2	痛みのメカニズム				
3	炎症について				
4	温熱療法について1				
5	温熱療法について2				
6	寒冷療法の実施方法				
7	光線療法の適応・禁忌				
8	エネルギー変換療法				
9	超音波療法の適応・禁忌				
10	電気刺激療法について				
11	電気刺激療法 TES、FES				
12	電気刺激療法 TENS、IFCS				
13	牽引療法の適応・禁忌				
14	水治療法				
15	まとめ				
成績評価	小テスト、定期試験、実技試験で合否を判定する。				
教科書及び参考書	教科書：物理療法学　医学書院 教科書：crosslink 物理療法学テキスト　メディカルビュー社 物理療法　羊土社、理学療法ハンドブック　協同医書出版				
教材 （例：パソコン・プロジェクター）	パソコン、プロジェクター、物理療法機器				
メールアドレス					
備考（受講に際する留意点など）					
物理療法は、体の生理反応や物理学を利用する治療法です。生理学や物理学の復習をしておいてください。毎回、前回の復習のための小テストを行います。					